

八女市立図書館本館整備基本計画策定における蔵書目標・施設規模の 考え方及び改修・移転の検討（案）

1. 蔵書目標の考え方

(ア) 蔵書目標

現在の八女市立図書館の課題として、人口規模に対して十分な蔵書数となっていない点が挙げられます。『図書館の設置及び運営上の望ましい基準』と比較すると、望ましい基準では人口5～6万人規模の自治体では、蔵書冊数は約30万冊とされているのに対し、八女市では市全体の蔵書冊数は約20万冊となっています。また、他同規模自治体と比較すると、その平均値を下回っています。

市全体で、望ましい基準に対し10万冊程度不足していることから、この不足分を補うため、新本館の蔵書目標は現在の約10万冊から増やし、20万冊程度とします。

(イ) 開架率

現本館の開架率は61.7%(令和4年3月31日時点。蔵書冊数103,726冊・開架冊数64,040冊)、市立図書館全体では69.5%(令和4年3月31日時点)であり、望ましい基準の数値65.3%とほぼ同等となっています。分館は延床面積があまり大きくなく、十分な閉架書庫を確保するのが困難であり、開架率が高くなっていることを踏まえ、本館では十分な閉架スペースを持ち、市立図書館全体のストックヤード機能も果たすために、開架率は現状維持をベースとし60%を目標とします。

閉架スペースとしては、通常の閉架書庫のほか、移動図書館用資料のための書庫を設置します。

表 1 八女市立図書館の開架率

図書館名	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)		開架率
		うち開架図書		
八女市立図書館本館	1,277	103,726	64,040	61.7%
八女市立図書館上陽分館	100	13,684	13,131	96.0%
八女市立図書館黒木分館	258	40,037	29,930	74.8%
八女市立図書館立花分館	133	19,507	13,224	67.8%
八女市立図書館矢部分館	216	9,569	8,348	87.2%
八女市立図書館星野分館	277	17,712	13,237	74.7%
市全体	2,261	204,235	141,910	69.5%

出典：『日本の図書館2022』

(ウ) 児童書割合

現本館の児童書割合は26.6%(令和4年3月31日時点。蔵書冊数103,726冊・児童書27,607冊)となっています。なお、八女市においては一般書と児童書の割合は70%：30%

を基準としています。

また、同規模自治体の中央館の児童書割合の平均が 28.5%となっていること、アンケートにおいて図書館の利用理由について、30代における「子どもと過ごすため」の回答率が50%以上、30代における「子ども向けの本や紙芝居」のニーズが30%以上あること等も踏まえ、本館における児童書割合は30%を目標とします。

表 2 同規模自治体中央館の児童書割合

No.	図書館名	延床面積 (㎡)	奉仕人口 (人)	蔵書冊数 (冊)	児童書割合	
					うち児童書	児童書割合
1	八女市立図書館本館	1,277	61,994	103,726	27,607	26.6%
2	千曲市立更埴図書館	973	60,097	130,851	36,814	28.1%
3	白河市立図書館	2,734	60,110	304,621	63,419	20.8%
4	下野市立石橋図書館	1,488	60,163	113,451	32,196	28.4%
5	長久手市中央図書館	4,201	60,183	234,339	80,331	34.3%
6	十和田市民図書館	3,199	60,345	186,739	65,782	35.2%
7	日向市立図書館	1,202	60,570	182,547	62,204	34.1%
8	田原市中央図書館	3,972	60,895	439,175	122,080	27.8%
9	紀の川市立河北図書館	873	61,094	97,192	32,383	33.3%
10	泉南市立図書館	1,600	61,149	319,554	110,766	34.7%
11	秩父市立秩父図書館	3,823	61,159	351,489	113,509	32.3%
12	みよし市立中央図書館	3,807	61,277	317,927	45,649	14.4%
13	気仙沼図書館	2,758	61,445	242,756	56,410	23.2%
14	蓮田市図書館	3,028	61,540	235,170	59,355	25.2%
15	山陽小野田市立中央図書館	3,498	61,565	237,828	57,884	24.3%
16	津島市立図書館	5,900	61,724	300,477	78,003	26.0%
17	橋本市図書館	1,400	61,774	164,918	60,356	36.6%
18	天童市立図書館	1,967	61,908	203,840	57,479	28.2%
19	多賀城市立図書館	3,342	62,311	283,298	82,862	29.2%
20	糸満市立中央図書館	3,610	62,349	256,186	68,202	26.6%
21	常総市立図書館	1,646	62,570	140,140	38,285	27.3%
22	愛西市中央図書館	2,012	62,648	147,174	39,553	26.9%
23	合志市西合志図書館	1,713	63,033	144,543	58,580	40.5%
24	白井市立図書館	2,919	63,162	561,118	106,213	18.9%
25	丹波市立中央図書館	1,224	63,235	131,072	24,429	18.6%
26	名護市立中央図書館	4,622	63,724	343,743	110,114	32.0%
27	大和高田市立図書館	1,268	63,781	104,638	36,717	35.1%
同規模自治体の中央館26館の平均		2,645.3	61,685.0	237,491.8	65,368.3	28.5%

出典：『日本の図書館 2022』

2. 施設規模目標

(ア)必要な諸室・スペース

これまでのサービス内容の検討を踏まえると、新たな本館では従来の図書館機能の拡充のほか、新たな機能が必要になります。また、市民のアクセスのしやすさに鑑み、適切な規模の駐車場の整備が必要です。

それぞれの機能において必要な諸室・スペースについて、以下に示します。

■従来の図書館機能

従来の図書館機能に必要な諸室・スペースは、従来の図書館サービス及びそれを拡充したサービスを果たすために必要な各種資料の開架・閲覧スペース、学習スペースが中心となります。

表 3 従来の図書館機能に必要な諸室・スペース

諸室・スペース	主な用途	備考
一般開架・閲覧スペース	一般書の配架、閲覧	
YA ¹ 開架・閲覧スペース	YA 向け資料の配架、閲覧	
地域資料・参考資料開架・閲覧スペース	地域資料・参考資料の配架、閲覧	・ レファレンスカウンターも含む
視聴覚資料コーナー	視聴覚資料の配架、視聴	
新聞・雑誌コーナー	新聞・雑誌の配架、閲覧	
対面朗読室	対面朗読サービス ² の実施	
読書バリアフリーコーナー	様々な障害のある方が利用しやすい形式で親しめる資料の配架、閲覧	・ 例 大活字本、LL ブック、点字本、朗読 CD、さわる絵本 ・ 拡大読書器、朗読 CD 視聴機の設置
サイレントルーム	静かな空間で読書や調べものを行う	
グループ学習室	複数人での学習や研究など	

¹ YA（ヤングアダルト）…10代の利用者・読者、または児童と成人の中間期を指す言葉。主に中高生世代のこと

² 対面朗読サービス…視覚に障害のある方や活字による読書に支障のある方を対象に、指定された資料を朗読するサービス

諸室・スペース	主な用途	備考
予約本コーナー	利用者がセルフで予約本を受け取る	・ IC タグシステム関連機器の設置
展示コーナー	本、作品等の展示	・ 例 八女市の特色に関する本等を集めたコーナー、ひと箱本棚
児童開架・閲覧スペース	児童書の配架、閲覧	
おはなし室	おはなし会の開催、読み聞かせ	
授乳室・おむつ交換室、ベビーカー置き場	乳幼児とその保護者が使用しやすい設備	
事務室・会議室等	管理運営のためのバックヤード	
ボランティア作業室	図書館ボランティアによる作業	・ 倉庫含む
閉架書庫	資料保管	・ 作業スペース含む ・ 集密書架、固定書架の双方を使用 ・ 学校図書館への配本用資料も保管
移動図書館書庫	移動図書館用資料の保管	
重要書籍保管庫	重要書籍の保管	・ 作業スペース含む
トラックヤード・車庫	配送車、移動図書館車の駐車スペース	

■新たな機能

新たな機能として設置する諸室・スペースを表 4 の通り整理します。図書館や市民の活動の場、また活動の発信の場として、ギャラリーや多目的室、スタジオ、オープンスペースを設置します。また、市民の交流の場として、カフェ・飲食スペースを設置します。

表 4 新たな機能に必要な諸室・スペース

諸室・スペース	主な用途	備考
ギャラリー	郷土資料等の企画展示、市民活動の発信の場として使用	
多目的室	図書館主催の講演、市民活動の発信の場、会議室として使用	・ 分割して複数の用途での使用にも対応できる設え

諸室・スペース	主な用途	備考
スタジオ等	音楽演奏、配信・編集、創作活動等の市民活動の場として使用	
オープンスペース	イベントスペース、情報発信コーナーとして使用	
エントランス	玄関、ホール	
カフェ・飲食スペース	カフェ・飲食時の利用、市民の交流の場	・ 詳細は継続検討

■駐車場の必要台数

人口が6万2千人前後の同規模自治体の中央館における駐車場台数は表5に示すとおりです。人口に対する駐車場台数割合の平均は0.178%で、これを八女市の人口61,994人に当てはめると本館において必要と想定される駐車場台数は110.3台となります。

ワークショップ等で出た意見である、乗り合いタクシーやバス等が新本館近くに乗り入れられるような進入路の整備を検討することも踏まえ、新本館における駐車場台数は100台程度と想定します。詳細については、設計段階で検討します。

表5 人口同規模自治体の中央館における駐車場台数

図書館名	現用館竣工年月	人口(人)	最寄り駅からのアクセス	複合/単館	図書館専有延床面積(m ²)	駐車場(台)	人口に対する駐車場台数割合
大和高田市立図書館	1989年4月	63,781	徒歩8分	複合	1,268	12	0.019%
名護市立中央図書館	1999年3月	63,724	徒歩6分 (最寄りバス停から)	単館	4,622	73	0.115%
白井市立図書館	1994年4月	63,162	徒歩15分	複合	2,919	200	0.317%
天童市立図書館	1983年7月	61,908	徒歩15分	単館	1,967	48	0.078%
津島市立図書館	2000年2月	61,724	徒歩25分	単館	5,900	153	0.248%
山陽小野田市立中央図書館	1995年9月	61,565	徒歩8分	単館	3,498	62	0.101%
蓮田市図書館	1998年3月	61,540	徒歩10分	単館	3,028	77	0.125%
みよし市立中央図書館	2016年3月	61,277	最寄りバス停からすぐ	複合	3,807	39	0.064%
秩父市立秩父図書館	1986年5月	61,159	徒歩15分	単館	3,823	34	0.056%
泉南市立図書館	1983年12月	61,149	徒歩15分	複合	1,600	120	0.196%
田原市中央図書館	2002年3月	60,895	徒歩15分	複合	3,972	303	0.498%
十和田市民図書館	2014年12月	60,345	徒歩1分 (最寄りバス停から)	複合	3,199	159	0.263%
長久手市中央図書館	1992年6月	60,183	徒歩8分	単館	4,201	115	0.191%
白河市立図書館	2011年1月	60,110	徒歩5分	複合	2,734	133	0.221%
平均	—	61,608.7	—	—	3,324.1	109.1	0.178%

出典：『日本の図書館2022』、ほか各図書館ホームページ、図書館要覧・年報

※無料の駐車場台数が分かる図書館を対象としている

(イ)施設規模目標

これまでの検討を踏まえ、新本館における施設規模目標を表 6 の通り整理します。

表 6 新本館の施設規模目標

諸室名		面積	収容冊数	席数	備考	
従来 の 図 書 館 機 能	一 般 図 書 ゾ ン	総合カウンター等	20㎡	—	—	総合カウンター、検索端末台、自動貸出機、自動返却機等
		予約本受取コーナー	15㎡	—	—	BDSゲート、自動貸出機、予約照会機の設置
		一般開架・閲覧スペース	530㎡	61,000冊	40席	
		YA開架・閲覧スペース	105㎡	10,000冊	20席	
		地域資料・参考資料開架・閲覧スペース	140㎡	12,000冊	12席	レファレンスカウンター含む
		読書バリアフリー開架・閲覧スペース	15㎡	1,000冊	2席	収容冊数一部に朗読CD含む
		視聴覚資料コーナー	30㎡	(3,000点)	6席	
		対面朗読室	15㎡	—	—	
		サイレントルーム	30㎡	—	18席	
		グループ学習室	30㎡	—	15席	
		展示コーナー	50㎡	—	—	
		新聞・雑誌コーナー	40㎡	—	12席	ブラウジングスペース含む
一般図書エリア計		1,020㎡	84,000冊	125席		
ソ ン 図 書	カウンター等	15㎡	—	—		
	児童開架・閲覧スペース	285㎡	36,000冊	20席		
	おはなし室	40㎡	—	—	20人程度	
	授乳室・おむつ交換室・ベビーカー置き場	30㎡	—	—		
	トイレ・廊下等	35㎡	—	—		
	児童図書エリア計	405㎡	36,000冊	20席		
バ ッ ク ス ベ ー ス ・ 全 体 共 用 部	事務室・会議室等	295㎡	—	—	事務室、会議室、応接室、休憩室・ロッカー、作業室	
	ボランティア作業室	50㎡	—	—		
	閉架書庫	145㎡	66,900冊	—	作業スペース含む。集密書架、固定書架双方を設置	
	移動図書館用書庫	50㎡	13,100冊	—	作業スペース含む	
	重要書籍保管庫	120㎡	—	—	作業スペース含む	
	トラックヤード・車庫	140㎡	—	—		
	トイレ・廊下等	660㎡	—	—	一般図書ゾーン、バックスペースのトイレ・廊下等	
バックスペース・全体共用部計		1,460㎡	80,000冊	—		
従来を図書館機能計		2,885㎡	200,000冊	145席		
新 た な 機 能	ギャラリー	50㎡	—	—		
	多目的室	200㎡	—	100席		
	スタジオ等	80㎡	—	—		
	オープンスペース	50㎡	—	—	イベントスペース、情報発信コーナーとして使用	
	エントランス	30㎡	—	—		
	カフェ・飲食スペース	150㎡	—	—		
	トイレ・廊下等	55㎡	—	—	ユニバーサルデザインに対応	
	新たな機能計		615㎡	—	—	
合計		3,500㎡	200,000冊	145席		

※視聴覚資料点数は収容冊数に含めない

3. 整備に当たっての改修・移転の考え方

これまで検討してきたコンセプト及びサービスを実現し、蔵書規模目標や駐車場スペース等を鑑みて、現施設を改修した場合、移転した場合の実現性を検討します。

また、現有の公有地の有効活用を図ることが財政的な点からも重要なことと考えます。そのためにも、検討にあたっては、①現施設での改修、②現地での建て替え、③新築移転の3つを比較します。

(ア)前提条件

表 7 現施設の敷地情報

所在地	八女市本町 536-3	
敷地面積	2,333.96 m ²	
都市計画	用途地域	商業地域
	建蔽率	80%
	容積率	400%
	防火指定	準防火地域

※現施設の延床面積：1,277.00 m²

【新図書館の条件】

延床面積 3,500 m²／駐車場 1,500 m² (100 台分、1 台あたり 15 m²で算出)

①現施設での改修

- ・延床面積は、現施設 1,277 m²での検討となります

②現地での建て替え

- ・敷地内に平面駐車場 100 台分である 1,500 m²を確保する場合、建築面積は 834 m²となり、延床面積 3,500 m²の図書館を建築しようとするすると 5 フロア必要となります。それほど広くないフロアが何階層にも分かれることで、利便性低下の問題と、運営への負荷が懸念されます
- ・1,867 m² (現敷地面積 2,333.96 m² × 建蔽率 80%) を全て図書館の建築面積とした場合、2 フロア程度となりますが、駐車場に使える敷地は 467 m² (平面 31 台分) となります

③新築移転

- ・駐車場 1,500 m²に加え、施設フロア数を 2 フロア程度と想定した場合、建築面積が 1,750 m²以上となり、最低でも 3,250 m²以上の敷地が必要となります
- ・ワークショップなどでも意見の在った広場等の整備も今後、視野にいれる場合は、なるべく広い面積の土地への移転が望まれます

(イ)比較

それぞれの条件において、新コンセプトを実現できるか、目標の蔵書数が収まるか、駐車場が確保できるか、想定されるコストや休館への影響などの観点から、①～③の条件を比較します。

表 8 各条件における比較

	①現施設での改修	②現地での建て替え	③新築移転 (3,250 m ² 以上の場合)
蔵書	× ・ 閉架率を上げることで蔵書数を増やすことはできるが、20万冊は難しい	△ ・ 駐車場との兼ね合いにより20万冊は難しい	○ ・ 蔵書数目標を達成できる
施設	× ・ 蔵書数を確保した場合はその分、その他フロアが狭くなり、バリアフリーの確保や新たなサービスの提供は困難となる	× ・ 平面駐車場を確保した場合、フロア数が5以上となり、利便性の低下、運営費の増大が考えられる	○ ・ フロア数を2～3に抑えられるため、利便性が確保され、運営費の増大も施設面積の増加、サービス内容の増加分にとどめることができる
駐車場	× ・ 駐車場の台数は変更できない	△ ・ 駐車場台数は確保できるが、諸室・スペースとのバランスの検討が必要	○ ・ 諸室・スペースを設けた上で、平面駐車場を確保することができる
サービス	× ・ 新コンセプトを実現するには、十分なスペース等の条件がそろわない	△ ・ 新しい諸室・スペースを検討できるが、駐車場との兼ね合いで十分なスペースは確保できない可能性がある	○ ・ 新コンセプトを実現するための、新しい諸室やスペースを一から検討できる
管理運営	× ・ 休館期間（代替サービス）が発生する ・ 資料一時保管場所が必要	× ・ 休館期間（代替サービス）が発生する ・ 資料一時保管場所が必要	○ ・ 休館期間が最短 ・ 資料の一時保管場所は不要
改修・建設コスト	○ ・ 最低限の費用で抑えられる ※劣化状況評価で外構が「C」判定であるほか、外壁の一部崩落や雨漏りのため、改修費は増える可能性がある	× ・ 解体費用と新築工事費用がかかる	△ ・ 新築工事費用がかかるが、公有地であれば土地取得費用はかからない

これらの比較から、新たな中央図書館としての機能を実現する上では、③新築移転が最も適していると考えられます。